

「完走はしたけど・・・」

思い返せば一年前、ピンクの羽をつけたオカマに抜かれて心折れ、30キロ地点で熱中症リタイアした福岡マラソン。あれから1年、今月9日、再び挑戦するも5時間47分と自己ベストを更新することも出来ず凹んでいる高野です。

30キロまでは想定どおりでしたが、30キロ越えて2時間もかかるようでは、話になりません。

この1年、悔しさを忘れずに練習したのはホントなんです。高橋尚子さんを育てた小出監督の本「30キロ過ぎで一番早く走るマラソン」を熟読し、特に大会前100日間は、そのトレーニングメニューをマネしてやってきました。

ただ、年頭にサブ4（4時間切り）を目指すとは言ったものの、10月になってもスピードは上がらず、これは厳しいなと思いつつ、トレーニングメニューの「距離」だけは走るようにしました。本では、1キロ当りのペース配分も指示されているのですが、とても書いてあるようには走れません。

「これが出来るなら、そりゃ誰でも4時間切れるわ」そういうメニューなのです。逆に考えると、まだまだ練習量が足りないし、練習の質も悪かったのです。

なので本番は、目標タイムを4時間30分に修正して臨みました。（それでも自己ベストを1時間上回るタイムですが・・・）

ところが30キロ過ぎて、ピタリと足が止まると、ドンドン人に追い越されていきます。またそういう時に限って、知人と会うのです。追い越していく人はみな笑顔で、「ゴールで会いましょう」と爽やかに走り去っていきます。

レース前2週間はお酒だって控えました。この1年で1700キロ走りました。それなのに・・・。そんなことを考えながら半ベソで走ってました。

苦い記憶も蘇りました。春先の佐賀さくらマラソンでもオーバーペースがたたったり、30キロでのリタイア。福祉タクシーに運ばれ、ゴールに着く少し手前で、横に乗ってた看護師さんが、ポツリ。「あ、あの人、完走したんだ。」その一言が、妙に心に刺さりました。なんだかとても自分が根性のない男のように思えて・・・。

35キロを過ぎると吐き気がひどくなりました。けれど、「もう、あんな思いはしたくない。何が何でも完走だけはするぞ」と決めて頑張り、なんとかゴールに。今まで走ったマラソンの中で一番苦しいレースでした。

この1年、2大会連続でリタイアしてましたので、家族は喜んでくれたものの、納得のいかない結果にまだ悶々とする日々です。